

主催事業 加賀家文書歴史講座のお知らせ

北海道の名付け親

「松浦武四郎の資料を見よう！」

北海道の名付け親として有名な松浦武四郎。幕末に蝦夷地と呼ばれていたころの北海道を歩き、数多くの日誌や地図を作り、蝦夷地の様子とその実態を明らかにしました。当館の「加賀家文書等資料」には、松浦武四郎からの手紙や日誌、地図などが数多く、所蔵されています。

この度の講座は、加賀家と松浦武四郎との関係についてのお話と、所蔵している資料を特別公開したいと思います。



松浦武四郎
(松浦武四郎記念館)

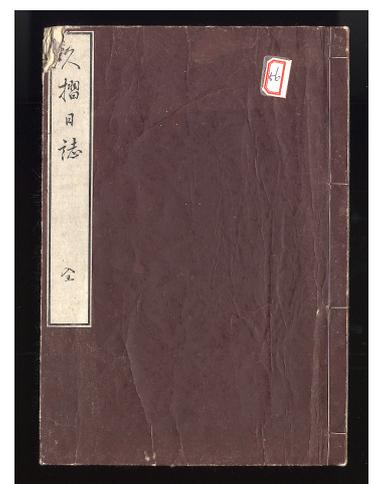
- とき 平成23年2月26日(土) 午前10時～12時
- ところ 附属施設加賀家文書館
- 内容 「北海道の名付け親、松浦武四郎の資料を見よう。」
別海町郷土資料館 主査 石渡 一人
- 募集人員 10名程度
(電話・FAX・メールのいずれかで、お名前と電話番号をお知らせください。)
- 申込み受付期間 平成23年2月25日(金)まで。



東西蝦夷山川取調図



松浦武四郎からの書簡



久摺日誌

近世の別海を探る 「西別川河口から北」～その3～

ニシハラマヘツ

文献資料の標記は「ニシハラマヘツ」「ニシハラマベツ」「ニシハ
オマ ヘツ」があります。

○地名の由来

〔ニシハラマヘツ〕「むかしニシハが落ちて死したるよし」

『午手控』松浦武四郎 安政5年(1858)

〔ニシハ オマ ヘツ〕「樹根川 木ノ根流レテ川中ニアリ」

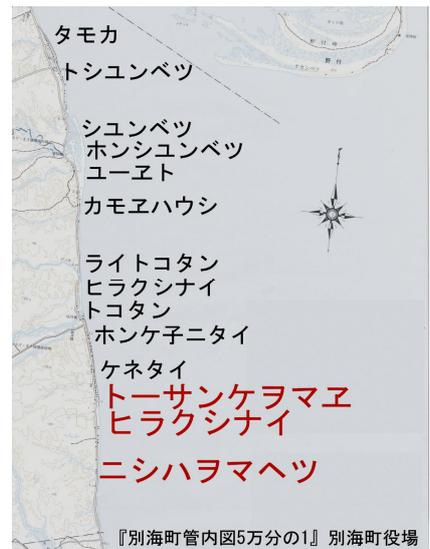
『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○地勢・建物など

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

「(小川)」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)



ニシハラマヘツ

ヒラクシナイ

文献資料の標記は「ピラクシナイ」「ヒラ」「ピラ」があります。

○地名の由来

〔ピラ〕「崖」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)



トーサンケヲマエ

トーサンケヲマエ

文献資料の標記は「トウサンケヲマナイ」「トリサンケベツ」「ト
ーサンケヲマエ」「ドリサンゲナイ」があります。

○地名の由来

〔トウサンケヲマナイ〕「此上に沼有、名義、沼より下る儀也」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

〔トリサンケベツ〕「早切(さぎり)を切て出したる此のよし」

『午手控』松浦武四郎 安政5年(1858)

〔ドリサンゲナイ〕「棒ヲ下ス沢。未タ橈ナキ以前ニハ縄ヲ棒ニツケ額に當テ棒を山ヨリ下シタル故ニ
名ク、此沢ノ雨降ラザレバ水無シ」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

別海町郷土資料館だより No.139

発行日 平成23年2月2日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

雪が少なくあまり季節感がないのですが、毎日、よい天気が続き、青空がとてもきれいです。これとは逆に日本海側は記録的な大雪で被害も大きく驚くばかりです。鳥インフルエンザも近隣で発見され、人ごとではなくなっているようです。(K.I)